

“アルプス米1等比率90%以上”を確保するための「令和6年産の重点対策」の内、「5月15日中心の田植えと適正な育苗作業」による老化苗の防止や「初期茎数の確保」をするための“健苗育成”が特に重要です。
計画的な育苗作業や適正な育苗管理により、健全な苗づくりに努めましょう。

<令和6年産の重点対策>

- ・ 5/15 中心の田植えと適正な育苗作業
- ・ 初期茎数の確保
- ・ 生育ステージに応じた水管理
- ・ 穂揃期の葉色低下防止のための追肥
- ・ 適期防除
- ・ 適期刈取り
- ・ 土壌改良資材の施用

1 コシヒカリの育苗計画 参照ページ:p22~24

表1 育苗計画の目安

田植予定日	浸種日	播種日	育苗日数	出穂期
5/10	4/7	4/19	21日	8/1頃
5/15	4/16	4/26	19日	8/4頃
5/20	4/25	5/3	17日	8/7頃

出穂後の高温を避けるため、田植は5月15日を中心に行いましょう。

R6年用種子は休眠が深いため、5月15日植えの場合、**浸種開始は4月16日頃**。

田植時期に合わせて浸種を開始しましょう。

育苗日数が長く葉齢の進んだ老化苗を植えると、初期分けつが発生が少なくなります。



表2 育苗作業スケジュール 5月15日田植えの場合

月日	作業	温度	作業ポイント
事前準備	ハウス準備	ハウスごとに温度計を準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ かん水装置を点検し散布ムラを調整 ・ ハウスまわりに排水溝を設置
	機材消毒		<ul style="list-style-type: none"> ・ 育苗資材等はイチバン（500倍液、瞬時浸漬）で消毒
	比重選水洗い ネット詰め		<ul style="list-style-type: none"> ・ 充実の悪い種籾を除去する。硫安はよく溶かす(表3) ・ 比重選後の種籾は、十分に水洗いする ・ 種籾は種子ネットの7割程度を目安に、余裕をもって詰める
4/16	種子消毒	水温 10~15℃ 桶ごとに温度計を設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬 ・ 薬液は種籾の2倍量を準備(表4) ・ 2~3回上下に攪拌し、種子を完全に浸漬
	浸種	水温 10~15℃ 特に浸種初日は12.5℃を確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸種期間の目安は、積算温度（水温×日数）120℃ ・ 種子消毒の効果を高めるため、浸種開始後3日は水の交換をしない ・ 浸種4日目以降は、酸素供給のため2日に1回は水を交換 ・ 種子籾の胚乳がアメ色で透明になったら、浸種完了
4/25	催芽	育苗器内温度 30℃	<ul style="list-style-type: none"> ・ 催芽のバラツキを小さくするため、催芽中は1日に2~3回袋を反転 ・ 催芽の程度はハトムネ程度(写真1)
4/26	播種	写真2 播種量の目安 (5cm四方に70粒)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種籾はしっかりと水を切る ・ 播種量は乾籾120g（水切り籾150g）/箱(写真2) ・ 苗箱施薬剤を播種同時施薬する場合、規定量が確実に入るよう調整する ・ 覆土は苗箱上面より少なく（0.5cm確保）し、かん水を培土内部までムラなく浸み込ませる(図1)
	出芽		出芽温度 30℃
4/29	搬出・緑化	ハウス内温度 昼：25℃以下 夜：10℃以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芽の長さが1cm程度に揃ったら搬出 ・ 搬出後、覆土を落ち着かせるため、必ずかん水する ・ 苗の白化を防ぐため、搬出直後は被覆資材で遮光し、緑化したら速やかに除去 ・ 日射があれば搬出直後から換気を徹底する
5/1	硬化	温度計は苗箱の横、苗の高さに設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水分不足による葉ヤケ防止のため、床土の乾きに応じてかん水実施 ・ こまめに温度計をチェックし、気温の高い日中は十分に換気する ・ 天気予報が晴れなら、常時換気する
播種から19日目			<ul style="list-style-type: none"> ・ ※晴天の場合、外気温が低くてもハウス内温度は上昇します！ ・ 強風時でも温度が高い時は、風下のすそを開ける ・ 田植10日前頃からは、昼夜ともにハウスのすそを開け、外気に慣らす
5/15	田植え		

表3 比重液の作り方 (うるち、水10Lの場合)

比重	硫安
1.13	2.5kg

表4 薬液の作り方(希釈倍率200倍)

種籾量	水	薬量
10kg	20L	100g

※廃液の処理は業者に依頼する等適正に行い、河川等に流さない！

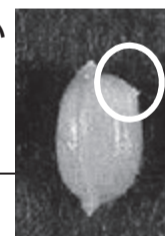


写真1 催芽の目安

かん水用のゆとり

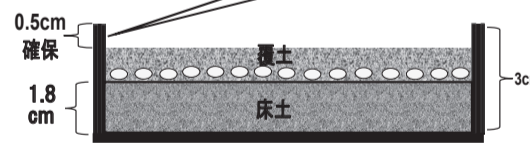


図1 播種イメージ(加工床土の場合)

出芽温度が高いと細菌病が発生しやすく、低いと出芽が遅れかつ不揃いになるので注意！

2 てんたかく、てんこもり、富富富の浸種作業について

- ・てんたかく、てんこもり、富富富の令和6年用種子は、休眠が深く、芽のそろいがばらつく傾向があることから平年に比べ浸種日数を1～2日程度長く（富富富はコシヒカリより1～2日程度長く）しましょう。
- ・早生品種等の早い田植えの育苗の場合、浸種時の水温が10℃より低くなりすぎないように、浸種場所や浸種方法を工夫しましょう。
- ・浸種完了の目安は、「種子粒の胚乳がアメ色で透明になった頃」とし、必ず確認しましょう（写真3）。

表5 てんたかく育苗計画の目安

田植予定日	浸種日	播種日	育苗日数
5/6	3/31	4/12	24日

表6 てんこもり育苗計画の目安

田植予定日	浸種日	播種日	育苗日数
5/8	4/4	4/15	23日

表7 富富富育苗計画の目安

田植予定日	浸種日	播種日	育苗日数
5/15	4/15	4/26	19日

種子粒の胚乳がアメ色で透明になったら浸種完了

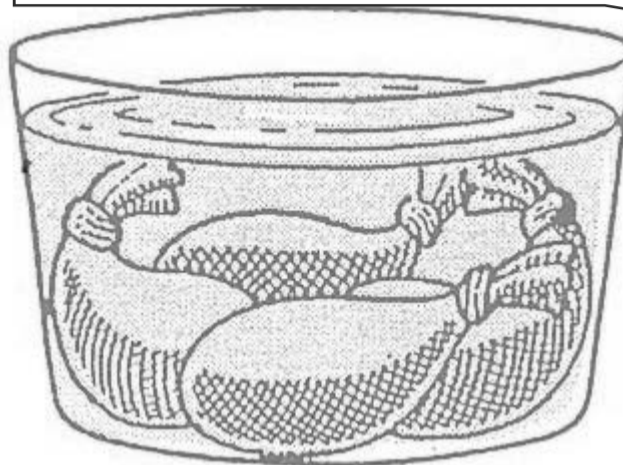


写真3 アメ色で透明になった頃

3 春のカメムシ被害低減対策

近年、早生品種のてんたかくだけでなく、中生品種のコシヒカリでも「部分カメ」による格下げが増加しています。そのため、水稻作付前からカメムシ対策に取り組みましょう。

○ケイ酸質資材の施用

籾殻のケイ酸濃度の上昇は、割籾の発生を防ぎ、カメムシによる斑点米発生を軽減します。土づくり資材を散布して、ケイ酸分を補給しましょう。

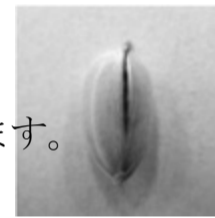


写真4 割籾

○カメムシ類が発生・増殖しにくい環境づくり

春先のふ化幼虫の餌となるスズメノカタビラやスズメノテッポウ等のイネ科雑草の発生を抑えるため、水田畦畔の除草を行ってください（表8）。初期のカメムシ類の発生を低下でき、以後の発生も抑えられます（図2）。

表8 春の畦畔等の除草管理とカメムシ類の発生密度低減効果

除草対策		越冬世代に対する密度低減効果		期待される主な効果
方法	処理ポイント等	幼虫	成虫	
除草剤散布	4月下旬までにバスタ液剤、ザクサ液剤等の茎葉処理剤を散布する	○	○	① 幼虫は餌となるイネ科雑草が無く生存できない ② 成虫の飛来や産卵がみられない
草刈り	穂が出ないように刈り取る	△	○	① 幼虫の発育遅延や羽化率の低下 ② 成虫の飛来や産卵の抑制

○：効果が高い △：一定の効果がある

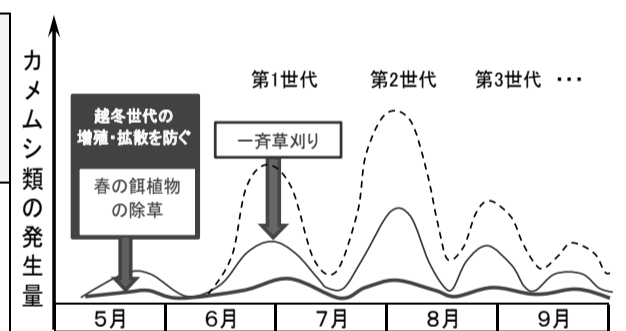


図2 カメムシ類の発生消長（模式図）

お願い・お知らせ

◎「生産記録簿兼GAPチェックシート」の記入・提出は必須事項です！

J Aでは記録内容に基づき、出荷・トレーサビリティに対応するとともに、次年度栽培基準の見直しに活用しております。

安全安心な農作物の継続供給のために、**生産記録簿兼GAPチェックシートは確実に記載し、必ず提出する**ようお願いいたします。

なお、「JAアルプス」のHPから様式をダウンロードできます。（TOP—農の情報—生産記録簿）

2024年度米
生産記録簿
兼GAPチェックシート

品種名：
生産組合名
生産者氏名（組織名）
住所
電話番号

◎「電子メールによる営農情報の提供」を行っています。

- ・スマートフォンやパソコン等で簡単に登録でき、ご希望の情報を選択できます。
- ・右記のアドレスやQRコードから登録画面に進めます。

◎JAアルプスHPでは他にも役立つ農の情報をお届けしています。

「<http://ja-alps.com>」



～春の農作業安全運動展開中～ 3/1～5/31
農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底しましょう